

助成事業実施報告書

団体名 楽農倶楽部多摩

代表者・役職名 氏名 新井 文夫

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

多摩市民による野菜作りをととした2050年の大人づくり

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期＝法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

平成18年に高齢農家から休耕農地を借り、団地の仲間を中心に開墾から土づくりを始めて野菜作りをスタート。高齢の農業者や近隣大学の専門家の指導を得て、団地住民でも苗作りから野菜作りが可能となり、栽培種も増え団地市場開設や地域コミュニティの輪が広がりました。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

「隣は何をする人ぞ」ニュータウンを楽しい暮らしにするには、皆が集まり何かを始めようでした。結果、団地住民による野菜作りをとしたまちづくりがスタートしました。2050年の大人づくりでは、教育委員会と連携してEsdを取り入れた活動を進めています。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

○野菜作り・販売事業:育苗から美味しい野菜を生産し、地域に販売。○教育事業(ESD):地区小中7校で緑のカーテンpj並びにESD教育に参画。○環境事業:多摩市と連携し、生ごみリサイクルサポーターとして生ごみ及び落ち葉の堆肥化活動を実践。○2014年から「生ごみ資源化pjイン落合中学校」は、生徒会の環境委員会として活動。○また近隣こころ保育園との菜園交流と給食野菜の供給を継続。○一昨年度から東愛宕中学校にて養蜂活動を始動。ESDの地域と学校の実践的教育活動として養蜂支援を継続していきます。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

緑のカーテンpj2010から2017では、小中学校6校参加の生徒数≒530名×8年≒4200名。保育園野菜授業2014から2017では35名×4年≒140名。落合中学生の自主的な環境委員会がスタートして、エネルギー・ごみ・生活を見つめ直しに取り組み、ESD研究発表がプューロランドでありました。愛宕アカデミーでは、蜜蜂の生態から蜜の採取や前提となる環境への関心の高まりなどが芽生え、2050年の大人づくりの助走に役立つものと思われれます。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

デフレスパイラル状況の長期化に加えて、派遣社員制度の導入などから、格差社会の拡大、貧困の連鎖が顕在化しました。結果、少子高齢化は更に顕在化し、政治経済福祉問題に留まらず、希望を持ってない若者や子供たちが現れている社会を標榜して、更に子供たちとの交流を継続していきます。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし